

(様式第2号)

SDGsの達成に向けた重点的な取組み宣言書

作成日:	令和6年6月5日
事業者名:	株式会社 石地

三側面	SDGsの達成に向けた重点的な取組み	関連するSDGsゴール (最大3つ)	実績	指標・目標	
				指標	目標
環境	牛のゲップに含まれるメタンガスは地球温暖化に多大な影響を与えていると言われており、これを削減する取組みを行う。具体的にはゲップに含まれるメタンガスを減少させることが分かっている飼料添加物を飼料中に配合、もしくはそのような機能性を持つ発酵飼料の利用を畜産農家に提案していく。	③気候変動に具体的な対策を	メタンガス削減につながる機能性のある飼料販売実績：約80トン/月 (R5年度)	指標	メタンガスを減少させる機能性のある飼料の販売数量(トン)の上昇
				目標	2030年までに120トン/月以上の販売
社会	食品の流通ロスをなくしていく食料国内調達取組みの一環として、今までは輸入牛肉に押されあまり生産されていなかった和牛経産牛肉生産について、飼料販売店として肥育方針を示すことで畜産農家への推進に取り組み、国産牛肉の確保に貢献する。円安により輸入牛肉が高騰してきており、国内調達を推進できる見込みありと考えている。	②飢餓をゼロに	和牛経産牛肥育向け飼料販売量：約15トン/月 (R5年度)	指標	和牛経産牛肥育向け飼料販売量の増加
				目標	2030年までにR5年度比で倍量以上
経済	飼料用に利用される輸入牧草を、国産牧草に置き換える活動を進めており、この活動の中で岐阜県だけでなく、国内の牧草生産地域の産業基盤育成や岐阜県の名産である飛騨牛の生産維持に貢献し、地方に皆が住み続けられる社会造りを目指す。	⑨産業と技術革新の基盤をつくろう、⑩住み続けられるまちづくりを	R5年度国産牧草の販売割合は、輸入牧草に対し5~10%程度まで上昇。(R3年度国産牧草販売はゼロ)	指標	国産牧草販売比率の上昇
				目標	2030年までに、輸入牧草に対する国産牧草の販売比率を20~30%程度まで上昇。
ガバナンス	チェック	SDGsの達成に向けた重点的な取組みが従業員に共有されており、かつ達成するための仕組みが組織内に構築されている(PDCAサイクル等)。 <具体的な内容を記載> 重点項目について社内共有を実施し、定期会議により進捗を管理していく体制としている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>				